

事務事業評価表 平成22年度

政策 環境と調和する都市の構築
 施策 循環型社会の形成
 基本事業 ごみ資源化の推進

事業名 **エコフェア開催経費**

[0015]

部名	生活環境部	事業開始年度	平成8年度	実施計画事業認定	非対象
課名	環境室減量推進課	事業終了年度	平成21年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>市民</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>家庭から出るごみを減らす工夫や、リサイクルの方法などについて、このイベントを通して情報等を提供し、意識の向上を図る。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>市とI別市女性団体協議会が実行委員会を組織し、ごみ・リサイクル関係団体・企業等による活動内容、分別方法、再生品紹介などの展示、実演等のイベントを年1回、市民体育館で開催する。</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	市民	人	123,537	123,054	122,568	
対象指標2						
活動指標1	企画展示数	件	14	16	12	0
活動指標2						
成果指標1	来場者数	人	4,000	4,000	2,900	0
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	663	668	578	0
正職員人件費 (B)		千円	4,187	5,015	4,979	0
総事業費 (A) + (B)		千円	4,850	5,683	5,557	0

費用内訳	
21年度	需用費 41千円、委託料 537千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始
背景

事業を
取り巻く
環境変化

21年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業
妥当である
妥当性が低い

理由・
根拠は？

ごみ減量に対して関心を抱かせ実践につなげていくためには、種々の方法による普及啓発活動が必須であり、イベントを通じてわかりやすく興味を抱かせることから、市の事業として妥当である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい
貢献度ふつう
貢献度小さい
基礎的事務事業

理由・
根拠は？

イベントを通じて、ごみ減量等の意識や興味を抱かせることができるが、それが定着し排出行動にまでつなげるのは難しい。対象がごみ問題に関心がある市民に限定されるほか、近年来場者数も横ばい状態である。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

あがっている
どちらかといえばあがっている
あがらない

理由・
根拠は？

来場者数が伸び悩んでいるほか消費者まつりと共催のため、来場した市民にどれだけごみ減量化を意識付け興味を抱かせる効果があったか測るのは難しい。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大
成果向上余地 中
成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

近年、来場者数が横ばいで伸び悩んでいる。ごみ減量化やリサイクルに関心のある市民の数は限られ、新規来場者を増やすためには、イベント内容の拡充等が必要で、限られた人員と予算の中では難しい。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある
ない

理由・
根拠は？

一過性のイベントとは違う啓発手段もありうる。平成21年度開催をもって、経済部所管の「消費者まつり」と統合したため、本事業を廃止とする。